

## 第1回 夢洲における国際医療のあり方研究会議 会議要旨

1. 日 時 令和4年7月1日（金） 13:00～14:30
2. 場 所 大阪府咲洲庁舎 34 階スマートシティ戦略部会議室・オンライン
3. 出席者  
遠山 正彌 大阪府立病院機構理事長  
澤 芳樹 大阪警察病院院長  
西田 幸二 大阪大学大学院医学系研究科教授（欠）  
森下 竜一 大阪大学大学院医学系研究科寄附講座教授（欠）  
南谷 かおり りんくう総合医療センター 健康管理センター長兼国際診療科部長  
北川 透 医療法人協和会理事長  
《事務局》  
大阪府 スマートシティ戦略部  
大阪市 デジタル統括室、経済戦略局  
《オブザーバー》  
大阪府 政策企画部成長戦略局、健康医療部  
大阪府市 万博推進局、大阪都市計画局  
大阪市 健康局
4. 議 題  
（1） 夢洲における国際医療のあり方研究会議について  
（2） 意見交換  
（3） その他
5. 会議資料
  - ・ 次第
  - ・ 出席者名簿
  - ・ 夢洲における国際医療のあり方研究会議開催要綱
  - ・ 第1回研究会議 資料（資料1、資料2、参考資料）
  - ・ 委員提出資料（西田委員）
  - ・ 委員提出資料（森下委員）
6. 会議要旨  
（1） 夢洲における国際医療のあり方研究会議について

- ・ 夢洲における国際医療のあり方研究会議開催要項第4第1項の規定により、委員の互選によって、遠山委員が座長に選出された
- ・ 遠山座長より、澤委員が座長代理に指名された

## (2) 意見交換

### ①夢洲における医療サービスの対象の考え方

- ・ 夢洲における医療サービスは、自由診療であれば、訪日外国人（観光目的、医療目的）および在留している外国人も対象と考える。

### ②必要なゲートウェイ機能の考え方

- ・ 2025年以降の大阪全体を見据えた上で、夢洲がどうあるべきかを検討すべきである。高度な医療は、大学病院等の日常的な医療があつてこそ成り立つものである。よって、夢洲には、単体で治療まで完結できる高度先端医療機関をつくるのではなく、各病院と連携したゲートウェイ機能を整備することが妥当である。
- ・ ゲートウェイにおいては、アフターケアもできる組織が望ましい。具体的には、各病院が用意しきれない通訳や医療コーディネーターを置き、基幹病院に振り分けるまでの期間、オリエンテーションを行う。さらに、帰国前のリハビリや検査で再度夢洲に戻って来られるような仕組みがあればよい。また、富裕層向けのサービスとするならば、ホテル機能との連携のもと、検査やリハビリテーションに対応できる機能が必要だ。
- ・ 海外では、医療コーディネート会社が乱立し実際の医療費より高い報酬を得ている事例も出てきている。他にも、我が国においては東京に医療コーディネートを行う会社が存在するが関西にはないため、関西の医療機関に紹介されない。夢洲に行けば、確実に病院に紹介され、適正な価格で診療を受けられると安心できるコーディネートが必要だ。
- ・ 診療形態は自由診療に限定することが望ましい。また、施設の運営のために、ある程度ビジネスライクである必要もあり、民間コーディネート企業に参画してもらうことも可能性としてある。

### ③規制改革項目（外国人医師・看護師の参画、オンライン診療、海外承認・国内未承認薬）

- ・ 外国人医師・看護師について、日本人スタッフとのコミュニケーションや診療行為の責任問題等、また日本の医師に診てほしいというブランドを加味しても、彼らを抱えるメリットが少ない。外国人医師・看護師の参画については参画もできるくらいにとどめるべき。英語による医師・看護師国家試験は、実施面の難しさも考えると、二国間協定で問題ないと思う。
- ・ 各病院で細やかに通訳対応することは困難であり、夢洲に通訳やコーディネーターを置けば、紹介先の病院も助かる。また、これまで育成に取り組んできた医療通

訳者等の人材の活躍できる場を提供でき、オンライン診療と併せて、そうした人材を集約化することでコーディネート機能が発揮される。

- ・ オンライン診療を行うことで、関西以外の他エリアの医師からのセカンドオピニオンも期待できる。さらに、訪日外国人に関わらず、在留している外国人に対しても、リモート診療を夢洲から行うことも考えうる。
- ・ 国内未承認薬の使用については、性善説を前提とした議論となっている。無制限に認めると、薬の悪用等のおそれもあるため、専門家が認めた場合のみ使用できるなど、慎重な対応が必要である。

### (3) その他

- ・ 夢洲に持たせる医療機能について、どのような患者をどのような期間、誰が診るのが未だ不明瞭である。一定の検査・診療・リハビリテーション機能は有するゲートウェイ医療機関という方向性は確認したが、さらに議論が必要。次回に持ち越して改めて議論を行う。

以上